

キイチゴ「ベビーハンズ」の春挿し春定植における適切な育苗期間

育苗期間30～50日で収穫本数が多くなり、長い規格の枝も収穫可能

背景・目的

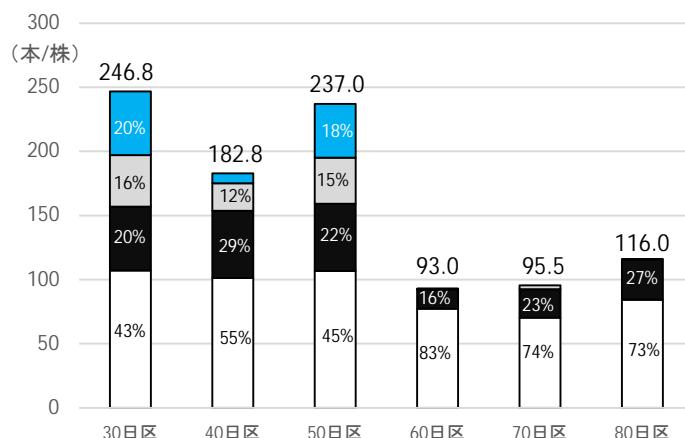
- キイチゴ「ベビーハンズ」は、これまでの試験より、挿し木から定植までの育苗期間が長すぎると根が茶色く傷み、定植後に生育不良となることが確認されています。
- そこで、育苗期間が定植後の収穫本数に及ぼす影響を確認し、適切な育苗期間を明らかにしました。

成果の内容

- 育苗期間30～50日で定植1年目における株当たりの萌芽数は多くなりました（図1）。
- 育苗期間30～50日で株当たりの収穫本数は多く、60～80日で少なくなりました（表1）。
- 育苗期間30～50日では、60cm以上の規格の割合が半数近くを占めました（図2）。
- 育苗期間60～80日では、50cm規格の割合が7～8割を占めました（図2）。



(図1) 定植1年目における株当たりの萌芽数の推移
(2020年度)



(図2) 株当たりの規格別収穫割合及び合計収穫本数
(2020～2022年度)

(表1) 育苗期間の違いが収穫本数に及ぼす影響

※単位は「本/株」

収穫年度	30日区	40日区	50日区	60日区	70日区	80日区
2020	17.6	8.6	36.8	2.4	3.5	6.0
2021	178.2	95.2	119.2	53.6	46.3	3.7
2022	51.0	79.0	81.0	37.0	45.8	106.3
合計	246.8	182.8	237.0	93.0	95.5	116.0

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 普及対象 県内の種苗供給会社（ジェイエイ・アグリシード）
- キイチゴ「ベビーハンズ」の苗生産の際に活用できます。

留意点

- 亜熱帯作物支場の露地ほ場（褐色森林土）における結果です。
- 「ベビーハンズ」の10a当たり目標収穫本数が3万本です（10a当たり500株定植時、1株平均60本以上）。
- この試験で用いた苗は、頂芽を挿し穂として切断面をオキシペロン液剤2倍希釈液に10秒浸漬した後に挿し木し、その後75%遮光下の無加温ハウスで育苗管理した苗です。